

郷土文学資料センターだより

第2号 2003年 11月 12日

資料の移管について

熊本 守雄

(郷土文学資料センター所長)

今般、附属郷土文学資料センター資料室に耐火保管庫が設置されたのを契機として、山口県立大学附属図書館所蔵の鷺流狂言関係資料43点、ならびに林滝野関係資料22点を、附属郷土文学資料センターに移管するはこびとなりました。附属図書館館長の森口覚先生をはじめとして、附属図書館関係者ならびに大学当局の御理解を得て、実現したものです。

7月16日(水)に、学生有志による助力も得て、所員総動員によって、搬入を終えました。その際、寺内文庫室に仮寓していた渡辺砂吐流関係資料も、郷土文学資料センター資料室(C館1階)に移動させました。



(センター蔵・菊舎自画像)

これらの資料は、今後、附属郷土文学資料センターにおいて保存・管理することになりますが、鷺流狂言関係資料は、本学の前身の山口女子短期大学時代に在職なさっていた石川弥一教授の手許に収集されていた資料で、江山本、春日庄作自筆本、野田神社奉納狂言本、中西治郎氏旧蔵本等の狂言台本の他に、鷺仁右衛門系台本、新潟本(石附本)、更には小舞集(春日庄作自筆本)、間狂言関係資料(春日庄作自筆本、近藤直三書写本)等があり、天保3年山本甚三郎書写になる「狂言名寄内外間名寄」も含まれております。当センター研究員の稲田秀雄教授を中心にして未翻刻資料の翻刻紹介が近々なされ、今後、研究が一層推進されるだろうと期待されます。

林滝野関係資料は、本学名誉教授の福田百合子先生を介して、林滝野の御遺族から寄贈いただいたもので、雑誌『明星』関係3点、書簡(与謝野寛→滝野9通、与謝野寛→鳳晶子1通、山川登美子→与謝野晶子1通、筆者・宛先不明1通)、葉書(口島小助→林滝野1通)、詠草(鳳晶子→与謝野寛1通)、書簡(堀口大学→正富汪洋1通)等が含まれております。

このたび、本学に着任された日本近代文学専攻の加藤禎行講師を中心にして、調査研究報告がなされるのも、さほど遠い先のことではないと思います。

寄贈図書・雑誌 (文芸／短歌／俳句／川柳／その他) の整理・登録について

春期休暇中の3月3日～31日にかけて学生有志諸君（森永千恵／小池明香／志村操／小池美晴／浅生堯／河野早苗／坪井真仁）が寄贈資料の整理を手伝ってくれました。

その後、小池さんが雑誌の登録作業を継続して行ってくれております。以下、小池さん作製の原稿（2003年11月7日現在）を掲載させていただきます。

一■一単行本・著書・定期刊行物

相本寿美子『句集 一つ灯』

社団法人日本児童文学者協会『県別ふるさと童話館』編集委員会『愛蔵版県別ふるさと童話館 3 山口の童話』

笹川章『其桃 俳句ノート』

河野希久江・河野雅彦『河野希久江・雅彦還暦記念出版本 婦唱夫随』

多田みちよ『嘉村磯多ノート』

鶴村松一『愛媛の自由律俳句史』

鶴村松一『伊予路の種田山頭火ー草庵時代文学遺跡散歩ー』

徳山市立中央図書館『徳山市立中央図書館所蔵 島田家文庫目録』

中村哲子『うさぎとかめー山口県徳地方言おきかえ話ー』

野村敏昭『生きる』

山口コンベンション協会『やまぐち方言帳』

松原泰道『母を訪ねて山頭火』

村上護『山頭火百二十句・道の空』

山崎行雄『平田耕一全著作』

毎日新聞社山口支局『はがき随筆 第14集』

防府市立防府図書館『図書館年報 2002』

河村正浩『珊瑚集 6 茫茫』

印内美和子『少女小景』

原善幸『原善幸随筆集 白百合の花』

弘中道代『弘中道代遺句集 夏帽子』

弘中道代『弘中道代遺句集 (二) 花ふよう』

李芒『山頭火俳句集』

内野慎司『風のように』



(排架済みの雑誌)

一■一雑誌

『中原中也研究』 7, 8

『颯』 62～64

『川柳 ほうふ』 No. 454, 460, 472～478

『火山群』 42

『萌』 291, 300～308号

『河川文化』 第23号

『種田山頭火ノオト』 11, 12号

ふるさと紀行『季刊ふるさと紀行 秋の号』 91号

『ほうふ図書館だより』 No. 163～170, 172, 175～183

『川柳 瀬戸内』 No. 168, 169, 171

『川柳 せめんだる』 No. 41, 452～459

『其桃』 700～707号

『風郷樹』 Vol. 28, 29

『柳井短歌』 237, 242～244号

合歓の会『歌集 合歓』 No. 14

資料紹介

狂言名寄・内外間名寄

稲田 秀雄

(センター研究員)

このほど郷土文学資料センターに移管された鷺流狂言関係資料42点は、①狂言台本、②小舞集、③間狂言関係資料、④その他に分類されるが、今回はその中から、特に年代の古い資料として、④その他とした『狂言名寄・内外間名寄』（仮題）を紹介する。

『狂言名寄・内外間名寄』は、写本一冊。寸法は縦15.0cm、横22.5cm。仮綴の本である。奥書に「天保三壬辰／正月吉祥日写之／山本甚三郎／直義（花押）」とあることから、天保三年（1832）の書写と認められる。鷺流狂言関係資料のうち、年代の明らかなものとしては最古の資料である。書写者の山本甚三郎については、目下の所不明であるが、長州藩狂言方に山本弥八（甚五兵衛）家があり、その関係の者かと推測される。

内容は、狂言曲目を列挙した、所演曲一覧というべき狂言名寄、小舞名寄、間狂言（能の中の狂言担当部分を指す）名寄から成る。このうち狂言名寄には、各曲の所要人数及び装束付（その曲目の役の扮装や必要な道具の記述）をあわせて記すのが珍しい。全体としては、江戸後期の鷺伝右衛門派の所演曲とほぼ一致するが、「萩大名」という曲を「宮城野」と表記するのは、この名寄が長州藩のものであることを示すようである（長州藩では萩の毛利家を憚って、「萩大名」を「宮城野」と称した。現在の山口鷺流でも同様）。そうだとすれば、長州藩における鷺流の所演曲及びその演出がうかがえる資料として、きわめて貴重であるといえよう。なお、この資料は『山口県立大学大学院論集』4号（平成15年3月）に全体を翻刻した。ご参照下されば幸いである。



(『狂言名寄・内外間名寄』)

資料 展 示

「田上菊舎」関係資料小展示のご案内

野口 義廣

(センター研究員)

この度山口県立美術館で「田上菊舎展」が開催されるのに併せ、当センターでも菊舎自筆の『笈の塵』を中心とした関係資料の小展示を行います。

『笈の塵』は“菊舎”改名以前の“菊車”時代、彼女30歳の天明2年(1782)と推定される5月末から6月にかけての越後・信濃地方における俳諧紀行で、まさに今回の「旅する女流文人」の名にふさわしいものと言えましょう。

本稿は5月27日、越中泊より越後直江津、高田を経て信濃善光寺参詣、さらに姥捨山に登り、高田に戻るまでの紀行であります。旅日記的色彩の強いもので、当時の俳諧行脚の実態、地方俳壇の実情、農民生活の様子などが窺われる点で貴重な資料であります。

公開講座 ----- ふるさとの文学

平成15年度の報告 (豊田町文化教育センター)

今年度、右記の要領で
公開講座「ふるさとの文学」
が開かれました。

豊田町教育委員長・豊田町公民館
の皆様方には大変お世話になりました。
心より厚く御礼申し上げます。

10月 4日	宇野千代の世界	— 福田百合子
10月 11日	山頭火よもやま話	— 和田 健
10月 18日	鷺流狂言の世界	— 稲田秀雄
10月 25日	上田堂山と『延齡松詩歌集』の世界	— 野口義廣
11月 1日	防長の歌枕	— 熊本守雄

編集後記

▲皆様方の御厚意・御尽力の賜物として、沢山の郷土文学資料をお寄せ頂いております。その一端なりとご紹介させて頂く意味をも込めて年2回を目処に会報を発行することとなり、今年4月に創刊号、そしてこの度、第2号を発行することとなりました。

ご意見お気付きなどございましたらお知らせ下さい。

▲菊舎生誕250年の今年11月11日～30日の間、山口県立美術館にて「田上菊舎展」が開かれます。当センター所蔵の資料も2点貸し出していますので、どうぞご覧ください。

■編集発行：山口県立大学附属郷土文学資料センター (〒753-8502 山口市桜島3-2-1)

TEL. (083) 928-0211 FAX. (083) 928-2251

■発行日：2003 (平成15) 年 11月 12日